

## トロントにおける反抑圧ソーシャルワーク ーソーシャルワーカーへのインタビュー調査ー

○ 日本福祉大学 大谷京子 (002998)

キーワード3つ：反抑圧ソーシャルワーク・批判的省察・インタビュー調査

### 1. 研究目的

ソーシャルワーカーは、対象者の状況を社会の抑圧構造のなかで理解し、抑圧や差別を排した実践が求められている。しかし日本における反抑圧実践（以下 AOP）の研究の蓄積も、実践も限定されている。そこで、ソーシャルワーク領域の AOP の実際を把握することを目的に、多くの研究/実践蓄積のあるカナダで AOP を展開するソーシャルワーカーへのインタビュー調査を実施した。

AOP とは、抑圧と不公平からの全ての人の解放と、全ての人に必要な公平で平等なサービスを開発することを目的とする社会問題へのアプローチ (Baines 2022) であり、批判理論、フェミニズム、マルクス主義などのイデオロギー、交差概念、解放の主張などを基盤に据える (児島 2019)。大きなシステムが、いかに特定の集団の労せず得た特権と力を守り、他の多くの人に有害で不公正な条件を生み出してきたかに注目する (Baines 2022)。

AOP に対しては、社会的・組織的抑圧の分析が、利用者の差し迫ったニーズへの対応につながっていないこと、構造的抑圧と、利用者がそれをどのように捉えるかという主観的経験の間の複雑な関係を単純化すること、犠牲者としての側面だけに焦点を当てると、結果として力の不平等の再現につながること (Millar 2008) などの課題も挙げられている。

本調査では、こうした課題も抱えつつ、カナダのソーシャルワーカーが AOP をどのように捉え、実践しているのかを理解することを目指した。

### 2. 研究の視点および方法

調査協力者は、経験年数 1 年-34 年のソーシャルワーカー 15 人である。トロントメトロポリタン大学ソーシャルワーク学部と提携している実習指導者に、実習教育マネージャーから本調査協力依頼文書と調査の説明文書をメール送信してもらい、AOP を展開しているソーシャルワーカーを募集した。調査協力意思を表明するメールを受け、筆者からあらためて調査の趣旨を説明し、同意を得られた方を調査協力者とした。調査期間は、2024 年 10 月 17 日から 2024 年 12 月 11 日である。調査協力者の希望に従い、オンラインか対面でインタビューを実施した。本報告では、「あなたにとって AOP 実践の意味を教えてください」というインタビュー内容のみを取り上げる。

インタビューは録音し、逐語記録に起こした。テーマに関連する部分をコード化し、類似するコードを集めてサブカテゴリーとし、類似するサブカテゴリーを集めてカテゴリーを生成した。

### 3. 倫理的配慮

日本福祉大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会からの承認（24-003-01）と、トロントメトロポリタン大学調査倫理委員会からの承認（REB2024-265）を受けた。本報告に関連して開示すべき COI 関係にある企業等はない。

### 4. 研究結果

『AOP 概念』『抑圧の認識』『対クライアント実践』『対組織実践』『対社会実践』『クライアント観』『ソーシャルワーカーの態度』という 7 つのカテゴリーが得られた。『AOP 概念』は、「捉え方」「志向性」「主義」「問題認識」という 4 つのサブカテゴリーで構成された。『抑圧の認識』は、「システムや文化による抑圧」「抑圧の種類」「抑圧の理解」という 3 つサブカテゴリーで構成された。『対クライアント実践』は「基本的ニーズ充足」「正当化」「エンパワメント」「コミュニティへの仲介」「アドボケート」の 5 つのサブカテゴリーで構成された。『対組織実践』は、「障壁の除去」「Ct の声を組織変革に活かす」の 2 つのサブカテゴリーで構成された。『対社会実践』は、「システムに抵抗する」「政府へのアプローチ」「市民教育」「コミュニティ形成」という 4 つのサブカテゴリーで構成された。『クライアント観』は、「主体性尊重」「評価者」という 2 つのサブカテゴリーで構成された。『ソーシャルワーカーの態度』は、「批判的省察」「再帰性」「Ct への影響を認識」「use of self」「文化的謙虚さ」という 4 つのサブカテゴリーで構成された。

### 5. 考察

反抑圧 SW は何で、何をすべきかという既存の答えはなく、簡単には答えが出ないという不快感を抱えながら生きる (Dumbrill & Yee 2019) とされるように、「AOP はソーシャルワークそのものだ」という回答がある一方で、その捉え方は多様であった。ただ差別や力の不均衡というシステムの問題を抑圧と捉え、その抑圧構造の中にあるソーシャルワーカーの立ち位置を批判的に問い続けるまなざしは、共通して語られていた。日本のソーシャルワークに取り入れるべき知見があると考えられる。

### 引用文献

Baines, Donna (2017) *Doing Anti-Oppressive Practice: Social justice social work*, 3rd ed., Fernwood Publishing.

Dumbrill, Gary C., & Yee, June Ying (2019) *Anti-oppressive social work: ways of knowing talking, and doing*, Oxford University Press.

児島亜紀子 (2019) 「反抑圧ソーシャルワーク実践 (AOP) における交差概念の活用と批判的省察の意義をめぐって」『女性学研究』26; 19-38.

Millar, Malcolm (2008) 'Anti Oppressiveness': Critical Comments on a Discourse and its Context, *British Journal of Social Work*, 38; 362-375.

本研究は、科研基盤 (C) (24K05373) を受けて実施した。

日本ソーシャルワーク学会多様性研究会において発表した内容に加筆修正した。